

歌を歌う。
音楽をする。



hiroyo

ちょっとだけ前書き

自分のブログで教えることを通して、改めて、歌うことや音楽することを考えてきたことを、生徒たちに教えるにあたって、どうするかを考えている過程。

レッスンを受ける前にこれを読んでいただくと、私の人となりもわかっていただけたと思います。

とりあえずは、2010年の終わりに色々まとめたことをここに改めて本にしておこうと思っています。ので、誤字脱字に関しては、随時直していきますので、ご了承くださいませ。

また、機関誌のように続編をどんどん出していきます～。

ミュージック・ラボ しえすたボーカル&ミュージック主宰
hiroyo

ほんとはめちゃくちゃなはじけているミュージシャンなのですが、ここはまじめに。。。facebookにもおります。。

なぜ、こんな名前にしたのか？

ミュージック・ラボ しえすたボーカル&ミュージック

元々、もうちょっと大きな家に住んでいたのので、そこで始めた自宅ボーカルレッスン。初めは、しえすた歌謡教室だったのです。あはは。なんか演歌学校みたい。まあ、理由はあるけど、ここでは割愛。で、しえすたボーカルになって、しえすたボーカル&ミュージックになって、今年はさらに付け足してみた。ま、まだ会社登録していないから、好き放題試しているし、生徒の一部はたぶん名前が変わっていることもしらないかも。。。あははは。それくらい弱小だからねえ。

今は、調布か柴崎付近のリハーサルスタジオを借りてレッスン。

もちろん、自分がプレーヤーとしてどこかのバンドに参加しているときは、いつもそれを考えてプレイをしていたけれど。アマチュアだけど、必死に追い求める大人の生徒たちを見ていると、より冷静に考えることになったわけ。そうすると、自分がいかにいい加減にしてきたことが多いのかも知ることになり、私自身より音楽に強く深くコンタクトしてことになった。これは、思わぬ収穫！これは、本当に私に生きる喜びを教えてくれたといっても過言ではない。

といういきさつから、ここはみんなで研究する研究室だということを明らかにしかったわけ。

レッスン中に何度となく生徒たちには言っていることのひとつは、「私は教えているんじゃない。あなたと一緒に考え、ベストな方法は何か、あなたが手に入れたいものをどうやったらスムーズに手に入れられるかを私の知識を使って、一緒に探しているのだ。一緒に探求しているんだ」と。

本当にそう思う。

私は、20代の頃、オペラ歌手にも習ったし、黒人にも習った。今は、ブラジル人に習っているし。でも、誰も、何か完璧なる正解は教えてくれない。その人の経験や絶対的になるからだの仕組みは話してくれたけど。私の求めるものは、先生の求めるものとは違う。私の体は先生とは違う。いつも、そのことで苦しんだ。

でも、スキルを知ることは教えてもらうという形でなければ、ありえない。習っていた頃は、私は子供で、何についても知らない事だらけで、考えも稚拙だったから、自分が受け入れられないのは、自分のせいで、自分ができないのも自分のせいだと思って、ただただ必死になっていた。でも、わからないとわかるまでやらないと気がすまなかったから、レッスンはいつも2時間とか体力勝負のものだった。

でも、今、私が教えている多くの人たちは、もう、自分の考えができてしまっている人が多い。音楽に何かの考えを持っていなくても、自分の物事に対するスタンスとかについては、もうある程度出来上がっている。そんな人にどうやって、教えるなんて態度で接することができるのだろうか？と思った。

まあ、私の性格が、強くマッチョな感じでは人に接することができないってのもあるでしょうけどね。

だから、研究所。でも、所長は私。好き放題やらせてもらいますけど。時々、音楽は、まずは、自身の体を左脳のコントロールを要求されるから、私が何かをいえるとすれば、その部分についてだけ。ロジカルに、フィジカルコントロールをスムーズにできるようにアシストをする。

で、歌は音楽の中心ではないってこと。声という楽器をつかっているアンサンブルの歯車のひとつ。もちろん、シーンによって、中心としての存在を求められることは多いけど、裸の干様になっては面白みも半減してしまうってこと。だ

から、しえすたボーカル&ミュージックなのです。

歌を歌う

歌を歌うことはどんなことを、生徒と一緒に、生徒の目線と私の観察を通して考えています。

ボーカル科

これは、私hiroyoの担当。すべてはプライベートレッスン。希望があれば、または。デュオで歌うなどの特殊な場合に対応してグループレッスンも行います。最近は、出張レッスンもしてます！！

なぜ、プライベートかということ、私のレッスンを受けていただくとわかると思うのですが、生徒の本当に求めているものをクリアにし、そこへできるだけ早くアクセスできるようになるのを目的としているレッスンなので、どうしても、一对一の密なレッスンが必要となるからです。濃い～です

プライベートなのに、安めの料金設定なので、周りからもうすこし考えないとカラダが持たないですよ～と言われて、そうかあ。。なんて思っている昨今。

レッスンの延べ時間10時間を越えてくると、だんだんとはっきりしてきますよ。自分が何を欲しているのかを。で、次々にやりたいことも広がってきます。ほんと。ほんと。魔法のレッスンなのだあ。たはっ。

内容的には、

1、warm up

これは、自宅でもカラオケ前にも実践していただけると、歌うからだが出来上がってきます。歌うことは、特殊なことですから。

2、breathing

息をどのタイミングで吸うか、どれくらいの量を効率よくカラダに取り入れるか。息だけを吐くのと、声を出していくのとの違いは何か。

3、voice training (必要に応じて、こちらでメニューは選んでます)

テンポにあわせて、声を出していくとはどういうことなのか。声の立ち上がりをよくして、リズム感のよい歌を歌うにはどうすればよいのかの基本トレーニング。英語の発音からヒントを得た独自の手法。まじこれいいです！

日本語で歌うことの多い方には、日本語会話にも役立つ**words on the tempo**というトレーニングも行います。英語版は、ラップのように歌詞をリズムにのせて、ダンスしちゃうトレーニング。(個人的には、これ大好きなんだけど。。。)これは、たぶん、アンチエイジングにもよいと思う。笑ったときの顔は確実によくなりますよ～。これ、普段、顔の筋肉を使わずにしゃべったり、歌ったりしていると、言葉ももつれることも多いから、その改善も。

4、sing a song

まあ、当然、楽曲を歌いたいという目的で多くの方はやってきます。上の基礎だけやっていると、飽きちゃいますし、実践の歌の中でどのように生かせるかってのが、一番大切なので、この楽曲をとりあげるレッスンは、もちろん力がいります。ですがね、基礎は大事なので、どうぞそこんとこ忘れないでいただきたい！！自分にあったキーがわからない方には、レッスン時間内にきちんとキー合わせをすることもいたします。

基本的に、私がピアノにて伴奏しながら、レッスンを進めます。カラオケ音源がある場合には、それを使って仕上げる作業もいたします。

この歌レッスンの特徴として、

a) **メロディーをはっきり把握する。**

よく適当に歌っているために前後のつながりが悪くなってしまうケースがあるので、ピアノを使って自分が歌うべきメロディを把握する工程。

b) **リズムをはっきり知る。**

実は、メロディラインより重要なこと。音楽の中で最優先される事項は、リズム。これは、歌も楽器の問わず。リズムが悪いとかよくわかっていないと、メロディもうまく歌えない。歌は案外細かく、難しいリズムを歌うことが多いので、それに対する理解を深めることは、ほんとうに重要。私はリズムに厳しいからね！びびしいきますよ。

c) **歌の構成を把握し、曲を通してのストーリーを作る。**

音楽はもともと時間軸に沿って、人間の感情や感覚を表現するもの。ミュージカルなどのように、役に沿った歌を歌う必要がなければ、時間を経過していくことで自身に発生するさまざまな変化をその流れに沿って、表現できるか。

または、オリジナルシンガーや曲そのものは、どのようなストーリーを展開しようとしているかとう楽曲トータルでの読み解き。これは、最終的に楽曲を再現するときには、欠かせない着目点。これがないと、平坦で、面白みのない、言葉を変えていうと、聞いている側が素通りしてしまうような歌になりがち。普段自然にできていることも多いのだけど、もう一度注目することで、より構造が見えてきますよ。

5、option1 (music sheets)

これが、アレンジャーとしての私のできることの最大のポイントになるか！

これは、ここの5番目というカテゴリーにいれていいのかわからないのだけど、譜面作成をきちんとすることにしました。

色んなものをクリアにするという目的のために、読めなくてもガイドになるので、基本的に譜面を使ってのレッスンを行っています。ですので、譜面のない曲はレッスンできません。

市販されていない曲を歌いたい場合には、こちらで、作成することになります。これは、オプション料金ががかかります。メロディとコードのみだったり、歌詞も載せたり、イントロやエンディング作成まで可能ですので、その都度料金が変わってきますが、これは、生徒さんのオリジナル譜面になりますので、貴重ですよ～～。

最近、このオーダーが増えているのです。来年は、これだけで独立した科にしようかなとも。。

6、option2 (karaoke)

すでにカラオケがある楽曲はそれを使って、曲をトータルにみればよいのですが、そうでない場合、自分の練習

用には、レッスン中に私のピアノ伴奏を録音していただき、それをご自宅で使用していただくということをお勧めしています。お勧めというか、必ず！です。せっかくだから、どこかでお披露目したいとなったときのためにカラオケ作成も始めました。（要望が多くて、始めたわけでございまして）

クオリティが色々ありますので、内容や料金に関しましては要相談です。が、これもかなり貴重！！なんっていても、オリジナルのカラオケですよ！

ただ、今現在では、カラオケ制作のみはお受けしておりません。レッスンをとっていただき、それにそった形でのカラオケ作成ですので、だからオプションです。

7、option3 (make your song)

す。これをボーカル科の中からはずし、から単独の科にしようかと思っているのですが。なんていっても、シンガーソングライターでアレンジャーでもある私の知識が生かされるすごいサービス。これ、私も受けたいくらいだわ！（？）

自分のオリジナル曲を作る。もちろん、自分が歌うということで、オリジナル曲を作るお手伝いをいたします。よりよいコード進行をつけるリハーナイズや、自分の声にあったキー探し。歌詞ののせかたのヒント。メロディラインやリズムへのヒント。などなど。バンドアレンジやレコーディングのためのアレンジもしますよ！（もち、有料ですけど）

最終的にレコーディングまでした生徒さんもいます～。もちろん、いろんなサイトでそういうサービスしていますが、しえすたでは、私が、初めの段階から関わるので、たぶんめっちゃ細かなことを煮詰めることもできますよ。これも、独立した科になるかな？

ピアノを弾く、ピアノと歌う

弾き語りがいつの間にかメインの表現方法になった私ですが、教えるとなるとなかなか苦労します。。

ピアノ、ピアノ弾き語り科

まあ、この科を特別に立ち上げたわけではなく、ボーカル科の人たちの要望もあり、レッスンしている状況なのですが、ちゃんとするにあたっては、科として独立をさせたほうが明確かなと思いました。もちろん、料金は同じなので、いったりきたり自由です。

教えているのは、もちろん私hiroyoです。なぜ、ピアノとピアノ弾き語りを一緒にしているかということ。現在の状況とか、肌で知るニーズとかでは、やはり、ピアニストを目指すというより、弾き語りができたらいいなあという人や、バンドの中でキーボードを担当になったというアマチュア志向の人が多く、そこをちゃんとフォローしようと思うと、このどちらも境界線がなくなってしまうのです。

ピアノ弾き語りは私のほんとうに専門なのですが、誰かに方法を習ったわけでもなく、なんとなく仕事があるからやらない？ってところから始まったものなので、まったくの自己流とっていいです。でも、この分野は、歴史も浅いし、これとってないので、きっとみんな自己流だと思いますよ。

ですが、ライブに来ていただくとよくわかると思いますが、私は、ビートルズのようなシンプルな8ビート奏法から、サルサのモントゥーノから、サンバ、ボサノバなどブラジル系のピアノ奏法、左手によるウォーキングベースを駆使したピアノ弾き語りなので、さまざま音楽ジャンルをピアノ一本で再現しつつ自分で歌えるというお手軽一人演奏ができるわけですね〜。（ま、そんなに実際はすごくはないんですけど、書くとなんかかっこいいなあ）

かつ、私の特徴としては、バンドに対応したり、たった一人の弾き語りに対応したりと、同じ曲へのアプローチを変えられることですね。で、このバンドの中での弾き語りというところから、ピアノを弾くことを教えるということへ発展していったわけですから、一緒のカテゴリーに入れていきます。（今後は検討中）

何しろ、ピアノを弾くという行為は、一人にしろバンドにしろ同じ。指が動くかにかどうにもならん。音符というかコードを読み解いて、それを実際に押さえるボイスンクができなきゃどうにもならん。わけです。

が。

一人の弾き語りの最大のポイントは、左手がルート音を押さえ、右手がハーモニー（コード）を押さえることです。右手は、コードも弾くが、時々フレーズも弾くわけです、願わくば、右手がフレーズを弾いた時は、左手はコードを押さえてもらいたい！！

そうなのですよ、瞬時に役割を変えつつ、メロディラインにのった歌詞を歌うという技なんですわ。で、私の

場合は、がんがんリズムを刻む。ここまで生徒さんに習得してもらえるようなカリキュラムを作りたいものです。

しかし、それには、かなりの多岐にわたるフィジカルトレーニングが必要になります。まあ、カロリー消費にはうってつけ！ほんと手のみならず、足も相当使いますし、腹筋も、腰も疲れます。

一方、バンドにおけるピアノは、もっとも役割として重要なのは、楽曲の色づけと展開への導きの役割。通常の4ピースとよばれるバンド体系では、ドラム、ベース、キーボード、ギター。まあ、ギターはピアノと役割がかぶるので、ここでは省略の3ピース。ドラムは、リズムキープや、楽曲の展開への大きな指針になる役目があり、ベースはコード進行を提示しています。

となると、ピアノはというと、ともかく、ハーモニーによる色づけと、リズムのポイントをしめし、メリハリをつけていく総合的に音楽をみる力が必要になります。コードも左手でルートを弾かなくてよくなるので、両手でのオープンボイスも可能になり、より、多くの音による色づけが可能になる分、それを瞬時に判断する能力と、再現できるフィジカルな力が必要になります。

今現在は、ピアノだけを習う機会の多い人は、一人のみ。ピアノ弾き語りは3人ほどいますが、基本的には、弾きたい曲をその人の能力にあわせて、演奏できるようにアドバイスしています。コードノートがわかって、どのように押さえるか（これが、ボイスです）がわからないと、音が飛んだり弾きにくいので、その辺をアドバイスしたり、一番と二番を音の数や、ちょっとしたフレーズを足すことなどで、アレンジしていく指導をしています。

欲をいえば、もうすこし、コードの読み解きや、それを実践的にプレイできるような基礎的なカリキュラムを作り、グループでのレッスンが可能になると、応用を養い、市販の譜面も自分なりの工夫をすることができるようになるのになあと、目下、私の課題となっています。

リズムを読む

すべての楽器に共通のリズム。譜面が読めないのは、リズムが読めないから。どうやってリズムを読むかを研究してみた短期セミナー。

リズムリーディング

これは、ドラム、サクスを習っている人たちからの要望につき、私がカリキュラムを立て、短期で行ったもの。こんなクラスがあれば、受けてみたかったという感じの基礎の基礎のリズム譜を読み解くことによって、どのような構造に音楽がなっているか、または、どこに重きをおいてのればいいかまでを知るためのセミナー。

このセミナーの最大の目的は、

アンサンブルで合わないのは、リズムである場合（ほとんどがそれ原因）

1、リズムがわかっていない

2、わかっていても、楽器がうまく演奏できないため、思ったように再現できない。

という二つの原因が考えられます。ただ、どちらの原因によってなのかを判別できていないと、効率的に練習もできません。

ということで、1の原因を徹底的に取り除こうというのが、最大の目的です。2は各自専門の先生についてがんばりましょ〜。

音程は、ゆっくり振り仮名でもつければ、なんとか読めるけど、このリズムは、たとえば、4分音符と8分音符の関係を知り、それを演奏仕分けなければならない。

とはいえ、よく使われる組み合わせは大してないのだ。ということは何度も言う。とてつもない広い海にいるわけではない。

1回目~3回目は楽器は使わず、音程もなく、机をたたき、手を叩くというシンプルにリズムを出すことをしながら、譜面に書かれているリズムを読み解く。基礎の基礎4分音符と8分音符の関係はどのようなものかもしっかり解説。

いわゆる講義。ラテン、ロック、ジャズなどの音楽ジャンルがリズムのどこに特徴があるのかなども解説。これくらいすると、人間知識欲の塊なので、今、興味がある音楽だけではなく、他のものにも興味を持つ気になれる。それ、大切。ひとつのものに、凝り固まってはいけない。

アマチュアであるほど、その柔軟さが、自分を縛り付けずに、自由な思考でやりたい曲をチョイスしていけるのだと思う。だれも教えてくれないからこそ、知らないで過ぎてしまっていることは多いのだから。

4回目で、各自の楽器に向かい、音をだしながら、リズムを体感する。書かれている譜面を正しく演奏できているかを厳しくチェックするので、どこに原因があるのかを特定しやすくなるので、自分のウィークポイントがあきらかになるということです。

そんなに楽しくはないだろうなあと当初思っていたのですが、集まった人たちが、とても切実で熱心だったので、案外楽しくレッスンができたので、よかったなど。専門的に感じるかもしれませんが、これがわかるとかなり気分が楽になるはず。一人ぼっちじゃないこともわかるはず。

アンサンブル（2人だって十分アンサンブル）しなきゃ音楽してないですから！